

学部優秀部門奨励金

(法学部 2021年3月卒業)

### 四年間の学生生活と今後の抱負

四年間の学生生活で、世代の異なる方々との交流を多く経験させていただいた。また、国を超えて、文化や価値観の異なる方々との交流を経験したことで、「知る」「考える」「行動する」ことの大切さ、難しさを学んだ。そして、新型コロナウイルスにより世の中が一変してしまったことを受け、人を想う気持ちや、あらゆることを考えるその時間自体が自分の人生において、重要なものであることに気づいた。

入学当初は、友人作りに失敗した。高校時代に思い描いていた大学生活に期待し、受験勉強を乗り越えたものの、理想と現実とのギャップに衝突し、居場所のないまま一人で過ごしていた。自分の殻に閉じこもり、何も学ばない自分に嫌気がさした。そんな自分を変えるために、夏休みを利用して、短期語学研修エリアスタディーズに参加した。研修先は、アメリカのイリノイ州シカゴである。現地の学生や町中のアメリカ人と話すうちに、その陽気で明るい国民性に、人に気を遣いながら生きてきた私は「自分に自信をもって、ありのままに生きていこう」と思った。帰国してから、アルバイトやボランティア、そして地域のスポーツチームに参加した。居場所が増えたことで、子供や高齢者の方と接する機会も増えた。また、ゼミでは高校生とも交流することがあった。はじめは接し方や、物事の伝え方がわからず戸惑うこともあったが、価値観の多様性を楽しめるようになった今では、毎日が、すべてが勉強だと感じられるようになった。何につけても学ぶことが好きになった。入学当初は苦い経験をしたが、エリアスタディーズに参加をするというその一歩を踏み出すことができた私を今では誇りに思う。

2020年になり、世界中で新型コロナウイルスが蔓延し東京オリンピックが延期、景気も後退に入るなど、激動の一年だったが、家族や友人、大学職員の方々の支えのおかげで、無事、就職活動を終え、来春から働くことができるということに心から感謝したい。

三回生で単位を取り切っていた私は、今年度、大学に行く機会というのはほんの数回しかなかった。元々、四回生の前期を就職活動の勉強期間に充てるつもりだったため、授業を履修しておらず、いわゆる自粛期間も個人的に大きな影響は受けなかった。ところが、半年ぶりに登校したら、大学の様子が一変していた。まず、学生が全然いなかった。昼休みになっても食堂は混まない。キャンパス内がとにかく静か。衝撃だった。今の一回生あるいは二回生、三回生には申し訳ないが、私はいい時期に海外研修をさせてもらい、ゼミやボランティアで課外活動をさせていただいたことに感謝せざるを得ない。でも、この時代に生きているからこそ感じられること、学べることはあるだろうから、決して弱らないでほしい。

私は、短期研修で「自分らしく生きる」ということを学び、良くも悪くも非常に独立志向が強くなっていた。ところが、この一年で、人とつながっていることの安心感や喜びを少なからず感じるがあった。世の中も、自分も変わっていく。そんななかでも変わらず大切にしていきたいと思ったのが自分の故郷や人情である。私はあえて、便利な都会ではなく自分のルーツがある田舎で就職をした。春からは、世のため、人のため、ひとつの「手段」として働かせていただく所存である。